

ねじりはちまき

6月 水無月 芒種 夏至の月になりました。6月1日衣替えです。

6日芒種、11日入梅、18日父の日、21日夏至となっております。

二十四節季の夏至を中心として約30日～40日間、梅雨の季に入ります。

この雨季に入る最初の日を入梅と言います。今年の暦には6月11日が入梅となっていますが、正確な日取りは毎年気象庁で梅雨入り宣言によるのが実情です。しかし、この入梅雨は中国、韓国、日本、特に北海道を除いた本州、四国九州では顕著にあらわれますから、私たちの日常生活にとっては切り離すことの出来ない現象です。なお、入梅と言う名称は『梅の実が熟す頃』だからなのだと思います。

毎日、毎日、今日も雨かと言うように雨が降り、湿気が多くなると悪い病気が流行ってきます。十分お体にはご注意下さい。

幸田常一

* * * * *

<会社近況>

最近、関東近辺で大きめの地震がおきていますね。テレビなどでは防災知識や日常でも使えるグッズ等を紹介しているのを見かけます。壁のひび割れや、住宅の劣化部分が気になる場合は早めの修繕をおすすめいたします。
ただいま本宮市、郡山市の現場をお世話になっております。

<6月の旬 オクラ>

夏のお野菜と言えば、オクラです。オクラはネバネバが特徴で、疲労回復に役立つそうです。おひたしや刻んで納豆などと合わせて食べたりすることが多いですね。栄養素はペクチンという水溶性食物繊維が豊富で、血中コレステロールを減らし血圧を下げる働きがあるらしいです。カリウム、カルシウムも含まれており、体の中の塩分を排出する作用と、骨を強くする作用も期待できるそうです。夏本番に向かう為に、様々な栄養を取り入れていきたいですね。

* * * * *

<おうちの点検・網戸の張替>

夏になると窓を開けて風を通すこともあります。その際、虫が入らないようにななどの理由で、網戸は閉めるというお宅が多いと思います。そこで網戸に関しての張替サインをご紹介したいと思います。

- ・網にはこりがたまりやすい
- ・網が破けていたり、穴が開いている
- ・網全体がたるんでいる
- ・網戸のゴム部分が劣化している
- ・フレームがゆがんでいる
- ・網戸を閉めても隙間があいている
- ・フレームがガタついたり動きが悪い
- ・網を指でこすると白い粉が付く

上記のような状態が見受けられる場合は、網の交換や、フレームの交換が必要です。今の時期に点検しておくと良いと思います。

* * * * *

令和5年6月5日発行

<発行責任者>幸田久美

有限会社 幸田建設

969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>先日、子供の運動会に行ってきました。制限なしの中、みんなで応援できることができることが新鮮でした。そして何より頑張る子供たちのパワーに感動した運動会でした。
(ほしの)

戦争を考える

あのアジア太平洋戦争から戦後77年、その間日本は戦争を経験していない。そういう状況下で2022年2月24日にロシアが特別軍事作戦と称して、ウクライナに軍事侵攻を開始した。地域の事情に疎い我々にとっては突然のことであった。実は、ロシアのプーチン大統領は2021年に「ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性」を発表していた。侵攻から1年以上が経過した。未だに、先行きどうなるのか、なかなか見通せないでいる。双方が歩み寄る和平は簡単に実現しそうにない情勢だ。何でこんなことになったのか。小生もそんなに詳しくは分かっていないが、今まで情報として入っていることで印象に残ったことを書いてみようと思った。ご存知のことも多いかと思うが、お付き合い願いたい。

今回のロシアの軍事侵攻は、ウクライナ側では予測されていたことなのだ。ということは、2014年の出来事があったからである。つまり、その年にウクライナ領である「クリミヤ半島（1954年にロシアから返還された）」がロシアに併合されたのである（ロシアの軍事介入のもとに、住民投票・独立宣言・併合要望決議・ロシアとの条約締結の手順を経ている）。そもそもウクライナには、歴史的経緯の中で、ロシア系（ロシア語を母語とする）の住民が多くいる地域があり、クリミヤもそうであるし、ロシア領と接する東部の2州（ドネツク・ルガンスクのドンバス地方）もそうである。ロシア系住民は当然親ロシア派である。ウクライナでは、これまで親ロシア派と親西欧派の間では紛争（内戦）がたびたび起こっていた。また、近時東部2州では親ロシア派が州政権を掌握している実態も生じている。今回のロシア軍事侵攻は、この2州（独立宣言し、ロシアから承認された。併合はされていない）からの要請に基づくとされている（当初発せられた声明）。ウクライナ側は、クリミヤのことがあったので（この時に政権の座から親ロシア派を追放する政変が起きた）、アメリカの支援などを受けて、軍事的にその後に供えていたのだった。国民世論も反ロシアで一致し、政権も当然反ロシアの政権が樹立された。そして、アメリカなどの支援を得て備えてきた軍事力はロシア軍のキーウ侵攻を跳ね返すことでその力が発揮されたのである。ここで特に記しておきたいのは、言語のことだ。2014年の政変の時、2012年に制定したロシア語公用語法が廃止され、ウクライナ語を公用語にする法律が制定されたのである。この一件だけ見ても、ウクライナの複雑な事情がみてとれる。

そこで一歩立ち止まって、ウクライナとロシアの関係を歴史的に辿ってみたい。日本は島国なので、陸続きの国同士の関係には疎い面がある。いわば、その入り組んだ、複雑な関係に着目したい。兄弟同士の関係といえばそういう側面にもあるし、憎み合う関係といえばそういう側面もある。ここではそれら全部に触れるわけにいかないが、いくつか紹介したいと思う。先ず、言っておきたいのは、ウクライナは歴史的にさまざまな国に支配されていたということである。それに、数か国に分割されることもあった。近世以降でも、17世紀には、リトアニア公国・ポーランド王国に支配され、その後ポーランド王国一国の支配に。そして1772年のポーランド分割により、西部はオーストリアに、東部はロシア（クリミヤを拠点に勢力を伸ばしていた）の支配下に置かれた。これが150年続く。ロシアとの関係でいうと、18世紀末から東部がロシア帝国の統治下に置かれるが、この時ロシアは、ウクライナ語を禁止する同化政策を取っている。それと、1922年からはソビエト連邦を構成する社会主义共和国となった。実質ロシアの支配下である。ソビエト連邦内でウクライナはロシアに次ぐ国土を有し、大きな役割を果たしていた。そのウクライナが国家として独立したのは、ソビエト連邦が崩壊した1991年である。スターリンのソビエト連邦下でウクライナは、厳しい弾圧が行われ、多くの政治家・知識人・文化人が粛清され、また1932～33年に農業の集団化が進められた中で大飢饉に見舞われた時、それにもかかわらずロシアの厳しい穀物の取り立てが行われて食料が欠乏し、400

万人～500万人が餓死（人口の20%）する事態になったといわれる。これは「ホロドモール」といわれている。大飢饉によるものでなく、人為的なものだという意味である。ここまで見てきて思うのは、プーチン大統領が言った「ロシアとウクライナの歴史的一体性」という意味は、「ウクライナはロシアの一部である」一大統領の公式発言にある一ということを指しているのではないか、そのように思えてならない。皆さんはどうですか。もう一つ、取り上げたいことがある。それは宗教関係である。ウクライナの首都キーウには1500年以上の歴史を持つ、世界遺産の「ペチエールシク大修道院」がある。ウクライナのロシア正教の総本山で聖地的存在である。9世紀末キエフ（現在のキーウ）公国が建国された時代に創建されたもの。当時のキエフ公国は現在のキーウとモスクワを含めたエリアであった。ロシア正教で信仰を共にしていたのである。現在正教は枝分かれし、モスクワ正教・ウクライナ正教となっているが、ウクライナにはロシア正教の信者もまだいる。正教としての根っこは同じである。プーチン大統領もキーウの大修道院にだけはミサイルを撃ち込まないよう厳命していたというのを報道で耳にしたことがある。さもありなんと思う。人間としてそこまで分別失ったらもうお終いである。

それとウクライナとロシアの間では、交流関係が密で親戚関係も多いのであろうとも思う。

ここまで書いてきて、この戦争（正式には、宣戦布告された戦争ではない）はどう終結されるのであろうかと考えてしまう。このような国際関係のことは、先ず国連憲章に定められているのでみてみよう。国連憲章には、あらゆる紛争は平和的に解決しなくてはいけないことが定められている。つまり、原則武力に訴えることはいかなる理由があっても禁じられているのである。それでは、加盟国すべてが順守する考え方かというとそうはない。ロシアを非難する決議で、ロシアに同調する国は数か国と少ないものの、棄権にまわる国の数が結構多いのである。非難する国が過半数は超えるものの、ロシアを孤立化させるところまではいかないのである。これに加え、国連安全保障常任理事国の5か国にロシアが入っているのだから始末に終えない。ロシアに都合悪いことは、中国も同調してすべて否決されてしまう。国連も機能不全に陥っている。誠に憂慮すべきことである。

最後に、この戦争の終わり方についてひと言。今回はロシアが一方的に軍事的に侵攻し、戦闘はウクライナ国内だけで展開されている。和平といつても、この戦争は双方とも引く気はない。そうすれば長引く恐れがある。いわば消耗戦である。犠牲者、兵器損耗も増えればばかり。そうすれば、終わりの形は朝鮮戦争の終結形態しかないのであるという人がいる。それは「戦争の凍結」だ。終戦しないまま、戦争は継続のまま、休戦するのだ。もちろん両国間の課題は未解決のままだ。課題の先送り。「終わり方が難しい」のである。どちらも国民がかわいそうだ。勿論そんな哀れみだけで解決はしない。日本は何か貢献できるのか。そんな中で、日本では軍備強化の方向が打ち出されているが、その議論の行方も気になる。中途半端になってしまったが、今回はこれで終わる。

3度目の挑戦・背水の陣

福島県と栃木県境の藪山 男鹿岳

(百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山。カッコ内の数字は標高)

【今回登った山の概要】

男鹿岳 (○おがだけ・おじかだけ 1777m)

- ・福島県側では「おがだけ」、栃木県側では「おじかだけ」と呼ばれている。
- ・男鹿岳はうつくしま百名山には入っていないが、栃木百名山に入っている。
- ・会津側に降る雨は水無川(みずなしがわ)から大川となって只見川と合流し阿賀川を経て日本海へ流れる。栃木県側の雨は那珂川(なかがわ)となり太平洋へと流れる。関東と東北の分水嶺。
- ・福島県側の南会津町田島の栗生沢(くりゅうざわ)から、荒れた長い林道歩きを経て県境の大川峠から栗石山(1701m)を経由して男鹿岳を往復するコースと、県境の手前の西尾根をたどって直登するコースがあるが、いずれもきちんとした登山道があるわけなく踏み跡と目印の赤テープが頼り。夏は藪漕ぎが酷くなるので残雪期に登る山とされている。
- ・ガイドブックでは集落を抜けた滝沢橋の先3.8km程の釜沢橋ゲートまで車で入れると紹介されている。歩行時間8時間20分～9時間。歩行距離19km。
- ・しかし豪雨の影響で2017.8.11から、登山口の県境・大川峠に至る黒磯・田島線の林道が、落石のため釜沢橋ゲートまで行けず、滝沢橋から片道3.8kmを余分に歩く必要がある。林道は廃道化しつつある。
- ・これまでの経過

○1回目 令和元（2019）年5月2日下見、5月4日本番

5月2日 滝沢橋で通行止め。釜沢橋ゲートまで車で行けないことを確認。

5月4日 滝沢橋6:20発。林道に雪はなかった。県境のずっと手前、西尾根から男鹿岳に直登するコースに進む先行の若者グループについて行ったが、途中でグループと離れ(ついていけず)、藪漕ぎのルート探索に失敗し林道へ引き返した。その後林道を県境・大川峠の登山口まで行ったが(13時前)、山頂往復は時間的に無理と判断し引き返した。歩行時間10時間。

○2回目 昨年（2022）年3月25日

集落のはずれで除雪が終わっていて数百メートル先の滝沢橋までは車で行けなかった。車を置き、7:20ツボ足で出発する。滝沢橋の積雪も30cm位ある。ガイドブックでは車で行くことの出来るとされている釜沢橋までで2時間もかかってしまった。12時半、県境の手前の西尾根登り口着。明るいうちの車帰着は無理と判断し引き返す。歩行時間10時間(うち7時間スノーシュー)。県境の登山口までも達することができなかった。

○3回目(今回) 令和5(2023)年4月28日～29日

昨年は林道に雪があったので時間がかかり登頂できなかつたことから、今回は林道の雪が消えるだろう4月末まで待つた。今回は背水の陣で臨み、できるだけ早く出発するため前日28日に現地に入った。滝沢橋の通行止めの所まで車で行けた。2台のオフロードバイクの若者が通行止めの内側からやってきた。話してみると白河に抜けるつもりで荒れた林道を進んで行ったが、山側が崩れて堆積した土石砂でバイクではどうしても進むことができなくなり引き返してきたとのこと。道の状況を聞くと4年前よりも荒廃が進んでいると感じた。

29日、5時前滝沢橋出発。前夜から朝方にかけて4台の車が来ていた。うち2台のドライバーがたばこ片手に談笑していた。登山ではないらしい。少なくとも2人以上が入山していることが分かり安心する。釜沢橋ゲート5:50。自転車が置いてあった。ここまで比較的平坦な道だ。(写真右)



6:50 小さなザックを背負った身軽な服装の若者が追い抜いて行った。話すと、岐阜県の人で、300名山を目指していて現在250山、ゴールデンウイークの連休中に東北の山を登ること。馬力がすごい。

6:52 山崩れを防ぐぶ厚いコンクリートの構造物が崩壊した所には以前にはなかったロープが設置されていて、少し楽になった。

7:15 右カーブの丸太が横たわっている所で休憩し、朝食のパンをかじる。若者が一人進んで行った。20分近く休み出発する。年齢不詳の登山者が自分を抜いて行った。道はしだいに荒れてくる。(写真下左から)



4年前に途中撤退した、西尾根から男鹿岳に直登する取り付き点に色あせたピンクテープがあったが林道を先に進む。今回は何事3度目なので山頂を踏むことを優先する。(写真次頁左)



に登って行く。



8:35 福島県・栃木県境の大川峠登山口(1250m)に着く(写真横長上、広くなっている)。雪がなかったので3時間半で着いた。パンを食べ水分を補給して8:55テープの目印の県境尾根を右(写真左)

初めはしっかりしていた踏み跡がしだいに薄くなりクマザサの藪漕ぎを強いられるがテープが適度の間隔で下がっているので助かる。雪が出てくるが腐っているのでアイゼンを装着しないで進む。木の周りで踏み抜かないように注意するが何度かは踏み抜いた。

踏み跡が一部不明瞭の所があったり、葉が茂った広葉樹の倒木を大きく迂回する所やテープを見失うこともあった。尾根筋が分かれれる所では慎重に行動し沢に入り込まないようにする。山頂近くの沢の急斜面を苦労して登ると傾斜が緩やかになるが雪上ではかえって迷いやすくなる。単独行の西尾根直登者の下山者とすれ違いアドバイスを貰う。

11:20 山頂着。滝沢橋出発から6時間20分、大川峠登山口から2時間25分を要した。3グループ6人の人達が休んで食事をしていた。写真を撮って貰う。(写真下)



いずれも栃木県の人達で西尾根直登コースを登ってきたが藪漕ぎが酷かったと話していた。もう2度と来ないという人もいてかなり疲労しているのが見て取れた。自分はまだ大丈夫と思った。

山頂は大部分木々が生い茂り見通しはあまり良くない。開けていたところにも雲が湧いてきて、さらに見通しが悪くなつた。天気予報通りだ。ガイドブックには山頂から少し南に行った所で展望が開けると書いてあったが、疲れて雪の上をさらに行こうとは思わなかつた。エネルギーを補給する。

11:55 下山開始。栃木の人達も大川峠方面に下山することだったので、彼らより早く出発した。自分は単独なので最後の下山者にはなりたくなかつた。



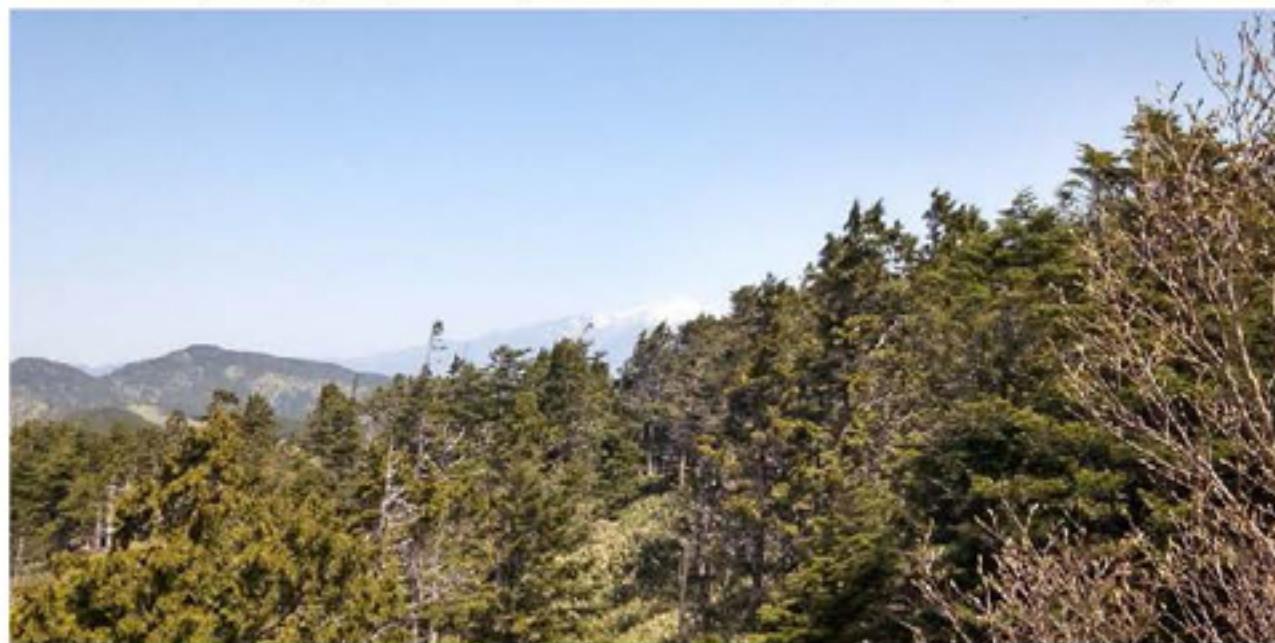
10:00 山頂着。4時間かかった。山頂には若いカップルが休んでいたがすぐに下山して行った。木製の展望台は古くて危なげだったが慎重に登ると木彫りのかわいいクマさんが出迎えてくれた。(写真下)



北には樹木の先に山頂付近がまだ白い御嶽山(百、3067m)が左側の稜線を見せていて。

(写真下) 南にはどっしりした穏やかな山容の恵那山が鎮座していたがもやで写真には写らないと思い撮らなかった。

そのほかの山々もかすかに見えていたが同定できなかった。



食事して下山しようとしたら、単独行の若者が登ってきたので互いに写真を撮りあい(写真次頁)、山の話をした。愛

知県の人で、ゴールデンウイークには四国の山を登ってきたとのこと。



11:20 下山開始。天候の崩れを気にしないでせた1時間20分の長い休憩で疲労も回復した。往路と同じルートで下山したが、笹原が広がる見通しの良い所で若者が追いこしていった。身が軽い、最近は対抗心もわからなくなつた。大人になつたものだと思う(笑)。

山頂からの山道と林道歩きを終えて再び次の山道に入る所で休んでいたら、その若者が下ってきた。とっくに先に進んでいると思ったので、「アレッ!」と言ったら、林道に出た所で方向を間違って反対方向に進んでしまったとのこと。下りでは勢いで進んでしまうところがある。

川上川の吊橋の所で渡渉し、銅穴の滝手前の林道に出てからはゆっくり景色を眺めながら緩い下りを歩く。渓谷がきれいだ。(写真下)



15時前、林道ゲートの車に着く。山頂での長い休憩を含んで合計約9時間の山行を無事終える。

車のナビで、北アルプスの有明山(○、2268m)の登山口のある中房温泉までのルートを調べたら、3時間以上かかり、距離も200km近くあることが分かった。今回は準備不足なので山は断念し帰宅することにした。

中津川インターから同じ経路で、23時前無事帰宅する。

日本三百名山残り20山。しっかりと頑張っていきたい。

令和5年5月 NO116 アンチ・エイジング 山旅遊人